平成16年度第8回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成16年11月16日(火)

開会 午前10時

閉会 午後12時10分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：大澤一夫、荻原善夫、奥野昌明、加藤桃代、苅谷勝、近藤重男、
櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、戸松秀男、
林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

事務局：加藤和人、秋田誠、長江均、森重憲、森純子、大和弘明

4 議題等

- (1) 第7回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) 試験運行事務等について
- (3) 利用者のアンケートについて
- (4) その他

5 会議の要旨

(1) 第7回交通問題懇話会会議概要の確認について

(事務局)

概要について異論等がなければホームページに掲載していきたいがどうか。

(構成員)

3点ばかり意味が通らないと思うところがある。①グループ作業に入る前に顧問の言われた言葉。②グループワーク終了後の構成員の発言で「鳥居と言うのは～」の部分。③会長の発言で「組織の受け皿の対応～」の部分。

(会長)

②③については言い回しや前後関係を見れば、内容は理解できると思われる。①については「検討内容が結果的に利用促進になると良い」と修正することで発言趣旨が理解できると思う。

(構成員)

南ルートの意見発表において「防災行政無線を活用する」という意見があったように思うが。

(事務局)

追加させてもらう。

(事務局)

11月11日に市議会議員を対象に説明会を実施した。その際、市議会議員の傍聴を別枠でお願いできないかとの申し出があったため、懇話会でそのことについて諮っていただきたい。

(構成員)

報道機関と一緒に、議員も市民の代表であるから、傍聴してもらえればよいと思う。また、人数は会場の広さなどを考慮して決めていけば良いのではないか。

(会長)

傍聴要綱は変えず、第9条の規定により、議員の方は5名を超えても傍聴を認めていくということよろしいか。

(構成員)

大賛成である。(一同了承)

(2) 試験運行事務等について

(事務局)

運営業者があんしんネットあいち(株) (つばめグループ) に決定した。

周知用チラシを11月15日号広報とともに全戸配布を実施。

第7回交通問題懇話会で出された意見を次の5つの区分に分けて整理し、実施していく。(スケジュール表を提示)

①市が12月1日の試験運行に向けて実施すること。

マスコミへの情報提供、公共施設へのチラシ貼付、病院・スーパーへのチラシ貼付、協力依頼等。

②構成員が12月1日の試験運行に向けて個人的にできる活動や市への協力・各種出身団体等での周知活動、日常的な利用等。

③市が12月1日から翌年2月までに実施すること。

スーパー事業者等との試験運行にかかる協議設定、関係団体に対する周知等。

④構成員が試験運行後、個人的にできる活動や市への協力。

日常的な利用、停留所の管理の協力等。

⑤当面は実施をしないこと。

回数券の発行、試乗券の発行、朝夕の増発等。

(会長)

12月1日までの試験運行開始までは大事な時期なので事務局に整理をお願いした。次回懇話会までに何を気にすればよいのか。開始前と後の活動について構成員の皆さんが生みの親という気持ちで意見を出してもらいたい。

(構成員)

懇話会は生みの親という気持ちはあるが、「懇話会は市への協力」などという記述を見ると、事務局はそれでは困るという意識があるのではないか。その辺の意思をしっかりと確認しておきたい。

(事務局)

この懇話会は、ご意見を伺うということでスタートした。これからは懇話会の位置付けとか目的などを考えていかなければならない時期にきたなという感じがしている。

(構成員)

懇話会や市議会、行政との立場・関わり方もある。懇話会としてもそうした立場などに配慮していくことが望ましいのではないか。

(構成員)

市会議員でも関心がある方はぜひ傍聴してほしい。生で懇話会の意見を聞いてよく理解し、市政に反映してほしい。

(構成員)

それぞれの情報の共有をもっとしっかりやらなければならない。

(会長)

2年間近く懇話会等としてやってきて、最後に意見を聞くだけの機関だというのはいけないと思う。

(構成員)

発車式、テープカットを懇話会主催で開催し、停留所設置に協力してくれた人を招待したりして、懇話会として何かやったことを残したい。

(事務局)

発車式については12月1日開催に向けて内部で調整を行っている。現在考えているのは、各出発地点で発車宣言をし、懇話会のみなさんも各地で参加してもらってから市役所へ到着したところで、簡単なセレモニー、テープカットを考えている。懇話会構成員、市議会議員、愛知運輸支局、守山署など関係者を招待しようと思っている。

(構成員)

構成員が前面にでるのか、裏方に回るのか。前面に出れば事務局が苦勞すると思うが。

(会長)

提案として、各地での出発は懇話会で開催し、運行して市に集まったところで市長等が式をやったらどうだろうか。

(構成員)

最初は市民の方に乗っていただきたい。構成員が乗るのではなく、裏方に回るべき。

(顧問)

「協働」という言葉の中にどういう意味があるのかをもう少し考えるべきである。懇話会の意見を聞くだけなら「協働」ではない。構成員が何かやろうとするときに、行政は何を手助けできるかなど、具体的な行動を決めていかなければならない。

(会長)

項目を絞って議論したいが、まず12月1日の発車式についてどうか。

(構成員)

発車宣言とは何か。

(事務局)

市の三役が3箇所それぞれで発車宣言を行う考えでいる。

(会長)

PRすると第1便に乗りたいという人が9人(定員)以上集まるかもしれない。そうすると最初から小型タクシーが列を為して走行していくことになる。

(構成員)

案として、第1便をなくしたらどうか。

(顧問)

市で出発式を行うということになると、第1便が時間どおりに市役所へ着けばよいが、朝のラッシュに巻き込まれると式が時間どおりにできるのか。そういう面でリスクがある。

(構成員)

市で式をやらなくても、それぞれ3箇所懇話会のメンバーが行けたら行って、拍手やクス玉を割ったりして見送ればよいのではないか。懇話会のメンバーは無理に乗らなくてもいい。

(構成員)

何のためにセレモニーを行うのか考えなければならない。一番大事なのはこれから地域の人に乗ってもらうようになることなのだから、セレモニーは簡単なものでよい。

(構成員)

前回、スーパーの店頭でしばらくは机を置いてPR活動を行っていこうと提案したが、その時にPR用ののぼりを作って、それらを出発式当日集めて立てて、太鼓のグループに太鼓を叩いてもらったらどうか。

(構成員)

お年寄りには最初不安感がある。タクシーチケットも最初より今の方が利用が多い。乗って安心するという気持ちになるまでサポートすることは必要である。

(構成員)

停留所を設置するときもPRしながら設置していくのはどうか。また、スーパーに市と一緒にチラシを持っていくという活動はどこのルートでもよいのか。チラシはできるならもう少し拡大印刷した方がよいし、時刻表も大きい方がよい。あと、12月1日以降でもよいが、個人病院の待合室にも貼っておくとよいのではないか。医師会に一括して頼んでもらってもよいと思う。

(構成員)

発車式の当日はジャンボタクシーに小型タクシーが連なるかもしれないが、今後も積み残しは出てくるのではないか。その場合いったい何分経ったら来るのだろうか。待つ方も限度があると思うが。

(事務局)

10～15分程度はかかると思う。

(構成員)

運行業者は何社に依頼し、どういう基準で選んだか。

(事務局)

市の入札参加者の手続きをしている業者から5社入札参加者を選定し、最も安い金額で入札を行ったタクシー業者1社と契約した。

(会長)

停留所設置にかかる日時等の情報を懇話会の構成員にも提供してはどうか。それで来てもらえる人は来てもらうというのはどうか。

(構成員)

設置の日程とだいたいの時間さえ教えてもらえれば、いろいろな人にもお知らせができる。

(事務局)

業者から設置スケジュールを提出させて、何らかの方法でお知らせしたい。

(構成員)

マスコミ広報について12月1日だけでなく、事前のPRも必要。

(会長) 停留所設置作業風景を撮ってもらうのも効果がある。

(構成員)

11月28日に農業祭があるので、その時にPRしてはどうか。チラシを配ったり、大きな掲示板をつくったりしてはどうか。

(構成員)

12月1日は第1便をなしにするとか、第1便をセレモニーバスにするとい

うことの周知をできないのか。または、停留所に貼っておけばよいのではないか。

(事務局)

結論から言うと、できない。絶対ではないが時間的にも無理である。

(構成員)

発車式は出発地のショッピングセンターの開店が10時だから誰もいないので、市役所でやるのは仕方がないと思うが、特に発車式自体も必要ないのではないか。

(構成員)

発車式にはこだわりはない。それよりもこれから乗ってもらうことが大事である。自分たちの集まりで一度乗ってみて、意見を出し合おうと考えている。

(3) 利用者のアンケートについて

(事務局)

アンケートの内容等については、他の自治体などを参考に作成した。本日構成員の皆さんから意見を頂戴し、伊豆原先生、加藤先生と相談し内容を定めていきたい。

(構成員)

A4両面では設問事項が多すぎる。乗っている間に書くのならA4片面まで。あと、バインダーに筆記具を挟んだ状態でないと乗っている間に書けない。

(顧問)

この質問はバスの中で書くものじゃなくて、家に帰ったときに書いてもらうのが前提になっているので、その辺を念頭に置いておかなければならない。

(事務局)

ご意見については、他に気付かれたことなどを、12月13日までに事務局へ直接意見を出していただきたい。

(構成員)

回収箱は公共施設にも設置しておいてもらいたい。

(会長)

意見のある人は事務局まで直接お願いしたい。

(4) その他

(構成員)

停留所東コースの⑨は上水道管理センター北という名称だが、北というよりは東の方が相応しいように思う。

(会長)

停留所の名称については次回停留所の見直しの際に直しましょう。

(構成員)

市民の中には公共交通に勝手に税金を使っていると言う人もいるので、そういう人たちへの説明ができるよう考えなければならない。

(構成員)

渋川福祉センターへは自動車で来る人が多いが、会の主催者に申し込み時にバスがあると知らせるためのビラ等を配布してはどうか。また、県営住宅には掲示板が50箇所ある。敬愛園は利用対象者が多いが、チラシでは見にくいので一度説明しに行くと言ってある。

(事務局)

次回の懇話会は1月26日(水)午前10時から201会議室にて開催する。内容は12月分の実証データなどを示し、利用の実態の報告などをして、皆さんからご意見をいただきたいと思う。